

産油国が目指すカーボンニュートラルへのトランジション

—アル・ファヒーム駐日 UAE 大使との懇談会を開催—

2022年10月6日

来賓：シハブ・アハマド・アル・ファヒーム
駐日アラブ首長国連邦（UAE）大使



経済広報センターは10月6日、東京・大手町の経団連会館でシハブ・アハマド・アル・ファヒーム駐日アラブ首長国連邦（UAE）大使との懇談会を開催した。会員企業などから約50人が参加した。

アル・ファヒーム大使は、日本同様、2050年のカーボンニュートラル実現という目標を掲げるUAEの再生可能エネルギー導入計画について説明。化石燃料への投資の少なさが足元の需給バランスを悪化させていると指摘し、CO₂回収などによる低炭素化を進めつつ、30年までに原油生産量を日量500万バレルに引き上げるとした。

特に、未来のことを考えつつも突然現在を変えることはできないとし、脱炭素化への移行（トランジション）を主眼に置くUAEの姿勢を明確にしながら化石燃料への投資を続けることに「疑いの目」があることも認め、あらゆる機会に再生可能エネルギーに関する取り組みをアピールしていると述べた。その一例として、「サステナビリティ」をテーマの一つとした2020年ドバイ国際博覧会（ドバイ万博）を挙げた。さらに、23年は、国連気候変動枠組条約第28回締約国会議（COP28）が万博跡地で開催される予定であり、環境と経済の両面からのソリューションを提供する場にしたいとの意欲を示した。

質疑応答では、30年以降の化石燃料への投資に関する質問に対し、アル・ファヒーム大使は、トランジションの視点を持ち続けながら、商業ベースで判断すると応じた。

以上

一般財団法人

経済広報センター

国際広報部

〒100-0004 東京都千代田区大手町 1-3-2 経団連会館 19 階

電話：03-6741-0031

<https://www.kkc.or.jp/>

<https://en.kkc.or.jp/>

※本稿の無断転載を禁じます。